

## 会 議 録

会議名	令和3年度 第6回 大野北地区まちづくり会議			
事務局 (担当課)	中央区役所 大野北まちづくりセンター 電話 042-861-4512			
開催日時	令和4年1月25日(火) 18時30分~20時00分			
開催場所	大野北公民館 大会議室			
出席者	委員	20人 (別紙のとおり)		
	その他	1人 公民館館長代理		
	事務局	5人 大野北まちづくりセンター所長、まちづくりセンター4人		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 2人
公開不可・一部公開不可の場合は、その理由				
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 あいさつ</li> <li>2 議 題 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会について</li> <li>(2) グループワーク 『地区課題の抽出』4回目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題設定(解決方針)</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>3 出席委員からの情報提供</li> <li>4 その他 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 次回日程について</li> </ol> </li> <li>5 閉 会</li> </ol>			

## 審 議 経 過

### 1 あいさつ

山口会長よりあいさつ  
(以後進行は山口会長)

### 2 議 題

#### (1) 次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会について

事務局より、資料に基づきこれまでの市民検討会の経過とまとめとして「鹿沼公園と図書館敷地を一体的に利用し、再整備を行う。」ことが確認されたことを説明した。

また、次回のまちづくり会議には所管部門の職員が出席するので、質問や意見がある場合は、配布した用紙に記入してまちづくりセンターへ提出するよう依頼した。

#### (2) グループワーク『地区課題の抽出』4回目

・課題設定(解決方針)

前回、各グループにおいて「なぜ、なぜ、なぜ」と原因を掘り下げていったロジックツリーを確認しながら振り返りを行った。

今回は、あるべき姿と現状の差となっている問題を、解決するために実行することの「課題設定」を行う最終ステップとなる。

具体的には、原因を取り除いてあるべき姿に達するためには、何を実行(行動)すればいいか?といった視点で、解決策を具体化していく問題解決のためのロジックツリーを作り、課題設定を行う。

前は、「なぜ、なぜ、なぜ」とロジックツリーを作ったが、今回は「どうやって、どうやって」を念頭に解決策のロジックツリーを作る。

最終的には具体的な行動(5w1h)にたどり着くことがゴールとなることを事務局より説明した。

グループワーク終了後に各グループより発表を行った。

#### A班

「自転車交通事故が令和2年よりも半減している状態」があるべき姿

大野北地区としては、どのような時間帯、時期によって事故が起きるのかといった地域の特성에基づいた、「どこが危ない、どうして事故が起こるのか」といった情報を、地域の人に知ってもらうことを目標とした。

手段としては回覧板やポスターで行う。その際には、標語を載せたり、商店街の買い物に利用できるチケットをつけたりする。理想論ではあるが、地域課題を解決しながら地域振興も図れるものになると考える。

そして、駅前の自転車ニーズが高まれば、行政を巻き込むことができ、今までのルールを変えるチャンスになると思う。

#### B班

世代間交流で地域が活性化している状態

～新たな世代間交流を季節ごとに開催する～ があるべき姿

地域活動に参加する世代を広げるのが一番重要と考え、どうすれば解決できるかを話し合った。子供、大学・高校生、若い大人に参加してもらい地域の活動に興味をもってもらう機会が必要。

子供が参加しやすい、時間や形態にしないといけない。

子供が学校以外で地域に参加しようと思う企画を何かできないか。

実例として、地域の運動会、地域対抗のイベントなどの大きな交流を通して、地域の交流に当たり前に参加できるような地域となっていければと思いました。

#### C班

「3年以内に交通事故が令和2年より半減している状態」があるべき姿

「暗い道が危ない」、「マナーが悪い・ルールを知ってもらいたい」の二つの観点から考えていった。

暗い道が危ない現状については、地域の自転車販売店を巻き込んで、バックライトを標準装備としてもらえるよう交渉する。

ルールを知ってもらうという観点では、自転車に特化したパンフレットを見たことがあまりないので、パンフレットを作り啓発する。内容は警察にも協力してもらい一帯に一冊を配れればと考える。

バックライトの標準装備については、交通安全週間と連動してお願いできたらと考える。交通ルールの啓発には、自転車の運転を教える場を作りたい。その際に、子供が喜ぶ受講証なども交付できればと思いました。

最後に事務局から、3グループが設定した課題のうち、1グループを役員会で選定して、次回の全体会で発表することを説明した。

### 3 出席委員からの情報提供

○大野北第2地域包括支援センターより、『消費者被害を知ろう講座』についてチラシをもとに周知がされた。

○事務局より「中央区こどもカレッジ」について、応募と近隣への周知を依頼した。また、地域活性化事業交付金の申請があった「伝統文化とのコラボレーションによる地域活性化事業」のなまはげパフォーマンスは、コロナウイルスの感染拡大のため中止となったことを報告した。

4 その他

(1) 次回日程について

今回は、令和4年2月22日(火)午後6時30分から開催予定である旨を事務局から報告した。

5 閉会

脇山副会長が閉会

以上

令和3年度 大野北地区まちづくり会議委員出席者名簿

	氏名	所属団体等の名称	出欠席
1	山口 信郎	大野北地区自治会連合会	出
		大野北地区社会福祉協議会	
2	飯田 秀雄	大野北地区自治会連合会	出
3	林 知治	大野北地区自治会連合会	出
4	脇山 寿満子	大野北地区民生委員児童委員協議会	出
5	小野澤 行雄	大野北地区社会福祉協議会	出
6	小川 紳夫	大野北公民館	出
7	田加井 政男	交通安全協会	出
8	萩原 ますみ	大野北地区交通安全母の会	出
9	岡 純正	大野北地区老人クラブ連合会	欠
10	安藤 貴光	相模原市消防団中央方面隊第三分団	出
11	竹内 重男	さがみはら国際交流ラウンジ運営機構	欠
12	小方 明	大野北青少年健全育成協議会	欠
13	高橋 美保	青少年指導委員大野北地区協議会	出
14	村田 明夫	スポーツ推進委員大野北地区協議会	出
15	霧生 貴紀	小学校	欠
16	平野 知彦	中学校	出
17	児玉 理恵	小・中学校PTA	出
18	三條 久美子	青山学院大学	欠
19	山岸 優之	桜美林学園	出
20	白石 一郎	麻布大学	欠
21	神谷 恵子	福祉グループ「輪」	出
22	伊藤 憲秀	大野北第1地域包括支援センター	出
23	加瀬 剛広	大野北第2地域包括支援センター	出
24	萩生田 康治	にこにこ星ふちのべ商店会	出
25	櫻内 康裕	淵野辺駅南口商栄会	出
26	玉城 洋	相模原市農業協同組合淵野辺支店	出

## 令和3年度 大野北地区まちづくり会議グループワーク班名簿

	氏名	所属団体等の名称	班
1	山口 信郎	大野北地区自治会連合会	オブザーバー
		大野北地区社会福祉協議会	
2	飯田 秀雄	大野北地区自治会連合会	B
3	林 知治	大野北地区自治会連合会	C
4	脇山 寿満子	大野北地区民生委員児童委員協議会	オブザーバー
5	小野澤 行雄	大野北地区社会福祉協議会	C
6	小川 紳夫	大野北公民館	オブザーバー
7	田加井 政男	交通安全協会	C
8	荻原 ますみ	大野北地区交通安全母の会	A
9	岡 純正	大野北地区老人クラブ連合会	C
10	安藤 貴光	相模原市消防団中央方面隊第三分団	A
11	竹内 重男	さがみはら国際交流ラウンジ	A
12	小方 明	大野北青少年健全育成協議会	A
13	高橋 美保	青少年指導委員大野北地区協議会	B
14	村田 明夫	スポーツ推進委員大野北地区協議会	B
15	霧生 貴紀	大野北小学校	A
16	平野 知彦	大野北中学校	B
17	児玉 理恵	小・中学校PTA	B
18	三條 久美子	青山学院大学	C
19	山岸 優之	桜美林学園	C
20	白石 一郎	麻布大学	B
21	神谷 恵子	ボランティアグループ	A
22	伊藤 憲秀	大野北第1地域包括支援センター	C
23	加瀬 剛広	大野北第2地域包括支援センター	B
24	萩生田 康治	にこにこ星ふちのべ商店会	A
25	櫻内 康裕	淵野辺駅南口商栄会	A
26	玉城 洋	相模原市農業協同組合淵野辺支店	C

大野北まちづくりセンター職員3名が、各班の進行役として参加。

# 令和3年度 第6回大野北地区まちづくり会議

日 時 令和4年1月25日(火)  
午後6時30分から  
場 所 大野北公民館 1階 大会議室

## 次 第

### 1 あいさつ

### 2 議 題

(1) 次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会について

(2) グループワーク 『地区課題の抽出』(4回目)  
課題設定(解決方針)

### 3 出席委員からの情報提供

### 4 その他

次回日程について

日 時 令和4年2月22日(火) 午後6時30分から  
場 所 大野北公民館 大会議

以 上

# 次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会について

## 1 淵野辺駅南口周辺のまちづくりの概要

淵野辺駅南口周辺のまちづくりについては、これまで地域住民や地域団体の代表者で構成される大野北地区まちづくり会議や大野北地区まちづくり懇談会の場で、多くの御意見を頂いてきました。

こうした地域からの御意見を踏まえ、「淵野辺駅南口周辺公共施設再整備・地域活性化基本計画（案）」を公表、平成 29 年 12 月から平成 30 年 1 月までパブリックコメントを実施しました。

パブリックコメントで寄せられた御意見を踏まえ、市民や施設利用者、有識者で構成される検討組織を平成 31 年 3 月に設置し、「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり」について検討を進めています。 【市 HP から抜粋】

市ホームページ内に特設サイトがありますのでぜひご覧ください。

検索方法

淵野辺駅南口

検索

## 2 市民検討会の概要及び経過

「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会・有識者協議会」は、淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて、大野北地区の住民や、相模原市民にとって魅力あるまちづくりの検討を行うことを目的として設置された組織です。

市民検討会は公募委員を含め 30 名、有識者協議会は学識経験者 7 名で構成されています。「まちづくり」・「公共施設」・「公園」のワーキンググループを組織し、これまで 15 回の市民検討会が開催されており、昨年 12 月 12 日の検討会において一定のまとめがなされました。（詳細は別紙次世代ふちのベニユース参照）

## 3 次回の大野北地区まちづくり会議について

回りのまちづくり会議（2/22）において市の所管部門職員に出席を依頼し、現状と今後の進め方について説明を求める予定です。

このため、あらかじめ質問事項や意見がある場合は、別紙又は任意様式にて 2 月 7 日（月）までに下記までご提出ください。

提出先 大野北まちづくりセンター  
担当 加藤  
電話 042 - 861 - 4512  
FAX 042 - 755 - 6521



**FAX 042-755-6521**

○淵野辺駅南口周辺のまちづくりに関する質問・意見について  
市所管部門へのご質問等がございましたら、ご記入いただき、2月7日  
(月)までに下記までご提出いただきますようお願いいたします。(ファックス可)

大野北まちづくりセンター  
電話 042-861-4512  
FAX 042-755-6521  
担当 加藤

## 第4回地区課題抽出グループワークについて

### 【グループワークのタイムスケジュール】

～19:45まで

#### ○前回のふりかえり

前回(12/21)は問題の原因究明を行いましたので、この中で根本的な原因と考えられる事象を特定します。(複数あってもかまいません。)

#### ○課題設定(取組方針の決定)

グループワークでの最終ステップとなる課題設定に取り組んでいただきます。ここでいう課題とは「問題(あるべき姿と現状との差異)を解決するために実行すること」という意味です。

#### 具体的な手順

- 1 原因を取り除き、あるべき姿を達成するためにどのような行動をすれば良いかを考え、各自ポストイットに記入する。(できるだけ多くのアイデアを!)  
記述方法は「～する」という動詞表現を基本としてください。
- 2 次のポイントを踏まえ、実行できそうな行動をポストイットから抽出する。  
○ポイント1  
有効性・実現可能性(コスト含む)の視点  
○ポイント2  
地域住民と行政が協働しながら問題解決を図ることができる行動
- 3 ロジックツリーを活用し、具体的な行動になるまで話し合います。(複数可)

### 【グループワークでの共通理解 ～原因究明・課題設定はロジックツリーで～】

問題をツリー状に分解し、ロジカルに原因や解決法を探す問題解決ツリーのことを「ロジックツリー」といいます。ロジックツリーを有効に活用すると、問題の全体像が把握でき、筋道を立てた原因究明ができることや設定した課題の優先順位がつけやすくなるなど、さまざまなメリットがある分析手法といわれています。

#### ○課題設定に活用する「How:問題解決ツリー」

問題解決ツリーは、問題に対して解決策を具体化していくツリーです。単なる原因の裏返しではなく、「So How?」(じゃあ、どうやって?)と問い続けることで、解決策が具体的な行動につながるまで考えます。

この過程を経ることにより、これまで実施されていなかった画期的なアイデアが生まれる可能性があり、大きな効果が期待できる解決策を見出すことが可能です。